



この一冊

Vol. 116

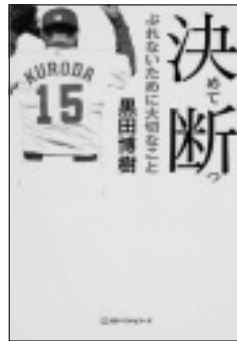


当会会員 西岡 孝浩 (61期) ●Takahiro Nishioka

皆さんは黒田博樹という人物をご存じだろうか。広島東洋カープのエースであり、ロサンゼルス・ドジャース、ニューヨーク・ヤンキースといったメジャーリーグの有名球団で活躍したピッチャーである。2015年にはメジャーリーグからの20億円オファーを蹴ってカープに「漢気」で復帰し、去年はカープの25年ぶりのリーグ優勝の原動力となり、そのまま現役引退を発表したことは記憶に新しい。そんな超有名メジャーリーガーはどのような野球人生を送り、いかに華々しい成功を掴み取ってきたのか。

本書には、黒田選手が野球を愛してやまないことや、その自信に溢れた生き方、投手として勝ち続けるための強気のマインドはどういうものかといった内容が書かれているのだろう…と想像していたのだが、実は全く書かれていなかった。本書から少し引用すると、「僕は、中学生以来、野球を楽しんでいたことは本当に一度もない」「打たれるのが怖い」「メジャーが夢であり憧れの舞台だ、という発想があまりない」「それまで日本で培ってきた自分の野球というものがアメリカで完

『決めて断つ』



黒田博樹 著
ワニ文庫
888円(税込)

全否定される可能性がある」「昔から、シーズン中には登板を控えて緊張や興奮、不安などで寝られないことなどしょっちゅうあった」「4年も苦しい時間を過ごすことできなと考え、年棒10億のメジャー契約を3年契約にしてもらおう」等々。その野球人生を通して、驚くほどネガティブ発想で、かつ極めて自己評価が低いのである。それで大丈夫か?と心配になるほどに。だが、本書を読み進めていくと、そのネガティブな発想と低い自己評価こそが、彼を最高のピッチャーにしたといっても過言ではないことが分かる。「すべては恐怖心から逃れるために練習を積み重ねていく」「粘り強くないからこそ目の前の目標にこだわる」

「勝っても簡単に自信を持たないようにする」「初心を大切にする」。野球に対する真摯な姿勢が一貫して綴られていて、黒田選手の間味や生き様を感じられる。そして、いかに有名になろうとも謙虚に生きる、初心に帰ることの大切さを感じさせてくれる一冊になっている。

黒田選手ファンや広島カープファンはもちろんのこと、私のように根拠のない自信を簡単に持ちやすいタイプの方に、ぜひ一読をお勧めしたい。

最後に。私が黒田選手の存在を知ったのは、約20年前、クラブ職人の父が同選手のクラブ製作を引き受けた時であった。以降、父は黒田選手のクラブを作り続け、昨年、同選手の引退と時を同じくして職人を引退した。用具製作で父が支えてきた野球人の人生がどのようなものだったのか、黒田選手の自伝を読みたいと思ったのが本書を手にとったきっかけである。

黒田選手の活躍が父の職人としての人生をより有意義なものにしてくれたことに感謝して、私の「この一冊」紹介の終わりとしたい。 ■